

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊橋あゆみ学園		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 17日		～ 令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 2月 17日		～ 令和7年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 21日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	リハビリスタッフが常駐しているため、幅広い内容での支援が提供できる。 要望の中で、専門的な質問があった際には、スタッフの派遣または電話等で情報提供を行っていく。	訪問前に電話で状況の確認と工夫を園内で検討している。	より丁寧に聞き取り等を行い、内容に合わせたスタッフの訪問を検討していく。
2	状況に応じて、在園中の様子をふまえた助言を行うことができ、共有理解を図っている。	保護者や学校、保育園との連絡時に状況を詳しく聞くように心がけている。行事の前など、新しい経験が予想されるときには電話連絡をするようにしている。	各家庭の状況に合わせて、電話連絡を行い、不安がないよう配慮する。また、保護者からも連絡しやすいよう関係性を気づいていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの体調や業務の関係で訪問予定が遅くなってしまうことがある。	訪問スタッフが兼務のため、予定が合わせられないことがある。	日程調整を早めに行うことで、定期的に訪問できるよう工夫していく。
2	訪問先にとって、課題が解消できていない場合がある。	本児の状況をわかりやすく伝えられていない場合がある。また、保護者と訪問先で統一した支援ができていないことがある。	家庭や訪問先の両者で取り入れやすいよう、よりよい方法を検討していく必要がある。
3	家族支援プログラムや児発を卒園後の保護者同士の交流や兄弟への支援が行えていない。	家族支援プログラムや兄弟支援の実施が現状では難しく、研修会等の情報提供も行えていなかった。	必要に応じて、ペアレントトレーニングなど家族支援の実施や兄弟支援の情報提供を行う。